

科 目 名	原子力特別講義		
学 期	A1A2 セメスタ	単位数	0.5 単位
曜日・授業時間	火曜 2 限		
場 所	原子力専攻 講義室		
担当教員	各教授（とりまとめ長谷川（hasegawa@n.t.u-tokyo.ac.jp））		
<u>1. 本科目の目的と学習教育目標（サンプル）</u> 原子力に関連する講義、演習、実習のほかに、エネルギー問題や環境問題の中での原子力の位置付けの理解など、原子力の専門職学位課程取得予定者として相応しい幅広い知識を習得するために、学会や産業界のほか、様々な業種・職種の専門家あるいは原子力施設の現場に精通した専門家による講義を行う。特に、事故を踏まえた今後の動向について、様々な分野からの講義を行う。			
<u>2. 講義の方法等</u> 各界の第一線の専門家、研究者による講演方式での講義を行う。			
<u>3. 専攻の学習・教育目標との関連</u> (1) 原子力技術分野に関する基礎的素養 (2) 原子力技術分野に関する高度の専門的知識及びこれを実務に応用できる能力 原子力専攻の講義、演習等の知識を活用し、実務の最先端における最新の情報を理解、取得する。 (3) 原子力技術分野において、複合的な問題を分析し、課題を設定・解決できる卓越した能力 原子力専攻の講義、演習等の科目や分野をまたがる複合領域における問題の解決に向けた最新知見を理解、取得する。 (4) 継続的に学習できる能力 最新知見の学習を通して、原子力専攻における講義、演習の振り返りを行う。 また、社会に出た後の継続学習の重要性を認識し、原子力高級技術者としての継続的資質向上を目指す意識を育てることができる。 (5) 原子力技術分野に関する実務を行うために必要な実践力、説明責任能力、コミュニケーション能力、協働力、マネジメント力など 福島事故など様々な失敗に学ぶことを目的とした講義が含まれ、この中で原子力分野における実務遂行力、科学的責任能力の重要性を学び、コミュニケーション力の重要性を認識することができる。 (6) 職業倫理、ならびにその倫理規範を守りつつ職務を果たす能力と態度 福島事故など様々な失敗に学ぶことを目的とした講義が含まれ、この中で倫理規範の重要性についての実経験を学ぶ。			
<u>4. 特別講義の日程及び内容（2024 年度：10/8、11/5、11/19、12/3、12/17）</u> 昨年度の講義内容は以下の通りです。今年度の内容は冬学期開始時にお知らせいたします。 10 月 10 日 小山 真一 様（日本原子力研究開発機構） 「燃料デブリ分析の準備状況」 11 月 7 日 宇田川 豊 様（日本原子力研究開発機構） 「原子燃料安全の考え方、研究の歴史と方法論」 11 月 21 日 万福 裕造 様（農業・食品産業技術総合研究機構） 「除去土壌の再生利用に係る講義」 12 月 5 日 白木 貴子 様（三菱重工業株式会社） 「専門職での学びをどう活かしているか？」			

1. 専門職大学院での学びとその後のキャリア
2. 三菱重工が取り組む革新炉開発の取り組み」
12月19日 小林 直樹 様（日本原子力研究開発機構）
「ロシア軍事侵略後のウクライナでの IAEA の活動」

5. 教科書、参考書等

講義日あるいはその以前に、講義資料を配布する。

6. 達成度の評価、成績評価の方法

- ・ 毎回の講義についてレポートを提出すること。
- ・ 講義の内容をまとめ、各自の考察及び評価を加えて、独自の議論を展開した内容とすること。
- ・ 講義内容の概要や感想ではないことに注意すること。
- ・ 参考とした書籍、論文および Web サイトなどは、レポート文末にリストとして明記すること。
- ・ 分量は、A4 用紙 1 枚以上とする。(10.5 ポイント、シングルスペース)
- ・ 締め切りは、講義が実施された日の翌週の月曜 13 時とする。
- ・ 提出先は事務室とする。

7. 他の講義との関連

それぞれの分野の第一線の先生による講義であることから全ての講義と関連している。全ての学生の出席を求める。